

## 平成25年度 第4回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日時】 平成25年10月28日(月) 午後3時～5時  
【場所】 BIZ新宿(区立産業会館) 研修室A  
【出席者】 委員:植田、川名、松尾、下吹越、前田、志村、富田、酒井、北村、坂倉各委員  
事務局:中川産業振興課長、黒澤産業振興係長、橋本文化観光課長、菊地新宿観光振興協会設立準備担当副参事、久野主任主事、渡邊主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 河藤、加藤、益田各委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

## 【内容】

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 新宿区の観光の現状

資料2に基づき、新宿区の観光の現状について事務局より説明した。

#### (2) 新宿区の強み・弱み

#### (3) 新宿区産業振興プランの方針と現状

#### (4) 第2期での検討の方向性

資料3、4、5、6、7に基づき、新宿区の強み・弱み、新宿区産業振興プランの方針と現状、第2期での検討の方向性について事務局より説明した。

#### (5) 専門部会委員の選定

事務局にて決定後連絡。

### 3 主な発言内容

#### ○観光について

- 『五感で楽しむ新宿観光ガイドブック』には、大久保が観光地として記述されていない。韓流人気で観光客がたくさん訪れているので、観光資源として考えたほうが良いのではないかと。地域の問題があるならば、今後どのような方向性で考えていくのかをきちんと議論してはどうか。
- 大久保に近い歌舞伎町で事業を行っていて感じることは、観光客が回遊しないと地元には意味がないということである。大久保を訪れる観光客の多くは、観光バスで訪れ、買い物だけを楽しんでバスで帰ってしまう。これではなかなか地元にお金が落ちない。
- 観光マップは、国籍、年代、性別など誰を対象としているのかが重要ではないかと。これから新宿を観光する人たちにマップをどう見せ、どう配るか考えると、デジタル化が有効な手段の一つだと思う。民間や個人でつくられているデジタルの観光ガイドは参考になる。デジタル化するとおすすめの歩き方や写真投稿、テーマ別のサイトをまとめることが出来る。
- 各商店街の近くにどのような観光地や観光スポットがあるのかということ踏まえて、各商店街がそういうものを取り込んで、新しい商品づくりなどに結びつく資料をつくることや、観光する方にわかりやすいマップづくりが将来必要になってくると思う。
- 現在のマップは四谷や市谷といったエリア別になっているが、史跡めぐりなどのテーマで、いくつかのストーリーをつくっていくことが求められてくるのではないかと。外国人や観光客がどういう分野に興味があるのかニーズ調査も必要で、あるエリアだけを観光してもそれほどお金は落ちない。交通機関を使って移動して観光できるスポットや1日満足して歩けるコースをストーリーとして考えてみる。ストーリーを考えるための素材は既にあると思うので、それらを結んでコースをつくるというのではないかと。所要時間やお店情報なども入ってくると、マップとして質が高くなっていくと思う。
- コミュニティバスを活用して、おすすめルートをいくつか設定してまちを回ると、デジタルや紙媒体のほかに観

光ガイドのひとつの形として考えられるのではないかと。

- ・公が担う観光振興は、お金にならない、マーケットベースにのらないけれども必要なものにもっと取り組むべきではないか。また、今すでにあるコンテンツを整理する役割、整理して目利きをするなど、情報の交通整理をするということに徹したほうが良いのではないかとと思う。
- ・新宿は観光産業の視点が足りないと思う。新宿は日本全国だけではなく、世界からも人が集まりやすい地の利を持っているので、新宿にある産業をいかに観光に結び付けるか、これは行政だからこそできることとして考えていかなければいけないのではないかと。

## ○第2期での検討の方向性について

- ・「新しい観光資源づくり」や「新宿のイメージアップ」については、新宿にはすでにたくさんあるので充分ではないかという見方もあると思うが、もっと大きなものを、もっと訴求力のあるものをつくろうということであれば、時間をかけて、「5年10年かかってでもやろう。」という、大きなビジョンをもって取り組む必要があるのではないかと。長期的で大きなビジョンをもてば、難しいことも一つ一つ解決していき、大きな観光資源ができていくのではないかとと思う。
- ・キーワードやコンセプト、スローガンなどが必要だと思う。新宿区は正統派文化のイメージがある。秋葉原などのサブカルチャーとは違うところが特徴ではないか。サブカルチャーではない本当の文化、昔からの文化、あえて正統派文化でいくというのも一つのコンセプトになるのではないかと。
- ・産業振興は、地場の産業が元気になることや中小企業が元気になる地域をどうつくっていくか、商店街をどうするのかということではないかと思うが、新しい産業をつくっていくことやまちに来た方に楽しんでもらうことは、そういう視点から少しずれてしまって、もともとの産業振興の部分が薄れてしまう気がする。この会議の議論自体がどこに向かっていくのか、もう少し具体的な動きができる施策を行うのであれば、対象を絞っていく必要があると思う。
- ・資料6にある産業振興プランの施策の方向性の3つ円には、「中小企業を育てる」という円がもう一つ必要ではないかと思う。中小企業を支えている企業、行政などが中小企業を育て、そこに伝統文化や地場産業が重なってくるのではないかと。
- ・「新宿区の特性を活かした産業振興」という諮問事項を考えたときに、一つのキーワードとして、観光や文化、人が集まっているという所をどう活かしていくのか、あるいはどう人を集めてくるのか、ということの切り口にして考えていくことが、今期の大きな方向だと思う。
- ・検討すべき問題として、時間軸をしっかりと考えておく必要があるだろう。新宿区の産業振興プランやビジョンにも関係してくるので調整をしなくてはならないが、大きな出来事である2020年のオリンピックを一つの切り口、一つの目標としながら、それに向けてどういった形で考えていくのかを議論していくといいたいのではないかと。
- ・文化や観光をどのように考え、範囲をどこまでにするのかは、産業や企業の振興をどう図っていくのかを考えていく中で、最終的に確定していけばいいと思う。産業振興基本条例には、地域の中小企業や地場産業、商店街の振興を図っていくことが目標として掲げられているので、そういったところに対しての視点を忘れてはならない。
- ・専門部会では、どのような形で人に来てもらえる場所をつくっていくのかという議論を最初にしていきたい。人に来てもらうことが、どのように地域の産業、地域の中小企業、商店街、あるいは地場産業などが、関わっていくのかを念頭に置きながら議論していく。来てもらえる仕組みができた上で、迎える側としての中小企業や地場産業、商店街が何をしなければならぬのかを、次のステップで徹底して議論を進めて行けばいいのではないかと。
- ・具体的に議論していく際には、現在、新宿は何ができていて、何ができていないのかを一つずつ洗い出して議論していくことを、専門部会で進めていく必要があるのではないかと考えている。

## 5 次回日程について (予定)

日時：平成25年12月11日(水)

会場：BIZ新宿 多目的ホール

## 6 閉会